

2024年度事業計画書案

自 2024年 4月 1日
至 2025年 3月31日

目次

1. 基本方針	1
2. 定時総会、理事会の開催に関する事業	1
1) 2024年度定時総会の開催	1
2) 理事会の開催	1
3. 委員会の開催に関する事業	2
1) JAPAN PACK 2025 実行委員会	2
2) 包装学校企画運営委員会	4
3) 広報推進委員会	4
4) 産学連携WG	6
5) 技術委員会	6
6) ISO/TC 313国内審議委員会	6
7) IOT WG	7
4. 会員等諸会合の開催	7
1) 歳末特別講演会の開催	8
2) 新年賀詞交歓会の開催	8
3) 支部役員会・支部会の開催	8
5. 調査、各種情報収集・提供等に関する事業	8
1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査	8
2) 技術情報の収集・提供等	8
3) 各種情報の発信等	9
6. 人材育成、セミナー、講習会に関する事業	9
1) 包装学校	9
2) 青年部会	9
3) 各種セミナー・講習会	11
7. 国の施策に関する事業	11
1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業	11
2) その他各種施策への対応	12
8. その他関連事業	12
1) 包装機械会館の運営に関する事業	12
2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業	12
3) 福利厚生に関する事業	12
4) 関連産業との連携	12

1. 基本方針

2023年度は、日本においても新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々に経済活動の正常化が進む中、資源・エネルギー価格の高止まりに伴う物価高、実質賃金の低下等の影響も強く、個人消費が伸び悩んだ。企業業績は好調に推移したことから、設備投資は緩やかな上昇傾向となった。経済産業省発表の生産動態統計（確報値）によると、2023年度は金額ベースで対前年比0.3%増と微増にとどまった。輸出は欧米地域のインフレが緩やかに低下している一方で景気は底堅く推移した。中国経済の鈍化により中国向けが半減。財務省発表の貿易統計（速報値）によれば、2023年度は対前年度比8.6%減となる見込み。

2024年度も国内企業の業況は引き続き好調を維持しており、計画対比で伸び悩んでいた設備投資にも回復の兆しも見え始めており、包装機械業界もコロナ前の水準まで回復することを期待している。また懸念だった中国経済も消費財・小売等が上昇基調にあることから、輸出の回復を見込んでいる。

当会としては、包装機械および関連業界の情報収集をはじめ、国・自治体の企業支援のための様々な施策等、会員企業に対し情報提供を行い、当会の事業活動がより活発になるよう、発展に努めてまいります。引き続き、会員各位の一層のご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

2. 定時総会、理事会の開催に関する事業

定款に基づく定時総会・理事会の開催、当会内規に基づく支部役員会・支部会の開催をはじめ各事業委員会等を開催し、本年度事業の円滑かつ適切な推進に努める。

1) 2024年度定時総会の開催

定款の規程に基づき、2024年度定時総会を開催し、2023年度事業報告の審議・承認ならびに任期満了に伴う役員候補者の承認、2024年度事業計画案・収支予算案の報告を行う。

月 日：2024年 5月29日（水）

会 場：鉄鋼会館 801号室（東京都中央区）

2) 理事会の開催

定款の規程に基づき、2024年5月（2回）、9月、12月、2024年3月の計5回理事会を開催し、2024年度の役員体制、事業の進捗状況、役員の業務執行状況等の確認・審議・承認を行い、事業の円滑な推進に努める。

※第366回理事会

月 日：2024年 5月29日（水）

会 場：鉄鋼会館 704号室（東京都中央区）

※第367回理事会

月 日：2024年 5月29日（水）

会 場：鉄鋼会館 701号室（東京都中央区）

※第368回理事会

月 日：2024年 9月13日（金）

会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）

※第369回理事会

月 日：2024年12月 4日（水）

会 場：（未定）

※第370回理事会

時 期：2025年 3月19日（水）

会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）

3. 委員会の開催に関する事業

JAPAN PACK 2025実行委員会、包装学校企画運営委員会、広報推進委員会、技術委員会、青年部会等の委員会を逐次開催し、本年度事業の円滑な推進に努める。

1) JAPAN PACK 2025 実行委員会

JAPAN PACK 2025 実行委員会（委員長：安達 拓洋 氏 イーデーエム株式会社 社長）は、来秋2025年10月の「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」の実施へ向けて、本年度より各種委員会活動を推進する。

国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬・化粧品製造機械、物流機器および関連機器の新製品を展示公開し、産業の合理化および国民生活の向上、貿易の振興、ひいては包装業界ならびに関係業界の発展を目的として、2025年10月7日（火）から同月10日（金）までの4日間、東京ビッグサイト東展示棟で開催の運び。使用ホールは当該期間における東1～3ホールの大規模修繕に伴い、東4～8ホールとなる。

第35回を迎える「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」のキャッチコピーは、『BEYOND | 包むで創る 人と未来と』。

未来を見据えた持続的発展性の具現化へ向けて、生産性・効率性向上を促す多様な新技術と繋がり、課題解決に革新的な提案を行う「NEXTステージ」としてJAPAN PACKを刷新すべく、「NEXT」という言葉をさらに一步進め、力強さと、多角的な連携と市場の拡大をイメージさせるとともに、ビジネスのブレイクスルーなどの意味も想起させる言葉「BEYOND」を据えた。記号の縦線「|」は、境界や限界（BOUNDARIES）を意図しており、“限界を超えて”“挑戦する「BEYOND BOUNDARIES」を表現。これまでの包装の常識や通念を“超えて”イノベーションを「包むで創る」。様々な課題を乗り“越えて”「人と未来を」豊かにする。「包」と「創」の二文字によって「ほうそう（＝包装）」もイメージ。10年後、20年後、さらにはその先2050年のカーボンニュートラルも見据えた成長軸において、アジア最大級の包装産業展へと進歩および進化を続け、サステナブルな社会の実現に貢献していくビジョンとともに、JAPAN PACK 2025の開催意義を描く。

「生産現場の自動化・効率化」「持続可能な社会への対応」「安全安心の実現」

「市場の拡大」を展示テーマとして、会員企業を中心としたジャパンプランドの包装技術を展示分類の第一に置きつつ、とりわけDX（自動化・デジタル）・GX（環境・包材）分野のすそ野拡大へ向けた専門的かつ効果的な活動にフォーカスし、生産ラインにおけるトータルソリューションの提供を目指す。加えて公益社団法人日本包装技術協会やAPAC（Asia Packaging Associations' Club）との協調をはじめ国内外関連業界・機関との連携を強化し、ソリューション型のB to B展示会としてステークホルダーのベネフィット創出に寄与する。

目標展示規模は、400社・団体／2,000小間。会場の有効展示面積は前回展（JAPAN PACK 2023）と比較して2,260㎡減少となるが、デッドスペースの限界的削減やギャラリー等関連施設の活用により目標を達成する。来場者数は会期4日間で40,000人を目論む。

※第4回正副実行委員長会議

月 日：2024年 4月 8日（月）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：・キービジュアルの最終合意へ向けて
・出展アプローチ計画（案）について
・その他、各種報告等

※第1回実行委員会

月 日：2024年 4月 8日（月）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：・開催計画および実行委員会の構成について
・開催指針およびキャッチコピー、キービジュアルについて
・ワーキンググループ構成および活動計画案について

※第5回正副実行委員長会議

月 日：2024年 5月13日（月）
会 場：株式会社イシダ 本社（京都市左京区）
内 容：・DX・GXワーキンググループ活動計画（案）について
・出展アプローチ計画の推進について
・その他、各種報告等

※開催説明会

月 日：2024年 9月（予定）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
内 容：・主催者挨拶
安達 拓洋 JAPAN PACK 2025 実行委員長
イーデーエム株式会社 代表取締役社長
・開催要旨について
阿部 公拓 一般社団法人日本包装機械工業会 事務局次長
・質疑応答
・その他

※実行委員会、DX・GXワーキンググループ活動の推進（4月～）

※TOKYO PACKとの包装展相互支援の推進（4月～）

※APAC活動による海外出展勧誘・来場誘致アプローチの推進（4月～）

※国内外関連展示会におけるプロモーション（4月～）

- ・2024 中部パック（4月）
- ・KOREA PACK 2024（4月）
- ・Hispack 2024（5月）
- ・FOOMA JAPAN 2024（6月）
- ・ProPak Asia 2024（6月）
- ・TAIPEI PACK 2024（6月）
- ・ProPak Indonesia 2024（9月）
- ・TOKYO PACK 2024（10月）

- ・ P A C K E X P O I n t e r n a t i o n a l 2 0 2 4 (1 1 月)
- ・ G u l f o o d M a n u f a c t u r i n g 2 0 2 4 (1 1 月)
- ・ P r o P a k P H I L I P P I N E S 2 0 2 5 (2 0 2 5 年 2 月)
- ・ 2 0 2 5 モバックショウ (2 0 2 5 年 2 月)
- ・ その他 (適宜)

※Eメール、公式サイト等デジタルツールによる広報推進 (4 月～順次)

※出展ベネフィットの拡大に繋がる特別展示企画の検討 (5 月～)

※来場者層の課題や展示テーマを基調とした併催イベントの検討 (5 月～)

※来場誘致アプローチ方針の検討 (9 月～)

※関連委員会等との連携による関係企画の拡充 (予定)

2) 包装学校企画運営委員会

包装学校企画運営委員会 (委員長 : 一岡 幹朗氏 協和電機株式会社 代表取締役社長) は、包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象に、本年6月から開講の第51期包装学校の運営ならびに来期包装学校の開講準備にあたり、活動を計画・推進する。委員は自ら講師を務めると共に、講座全体の充実化を図る。

※第119回包装学校企画運営委員会

月 日 : 2 0 2 4 年 5 月 2 0 日 (月)

会 場 : 包装機械会館 (東京都中央区)

※第51期開講式・グループワーク (オリエンテーション)

月 日 : 2 0 2 4 年 6 月 2 1 日 (金)

会 場 : 東京鉄鋼会館 (東京都中央区)

月 日 : 2 0 2 4 年 6 月 2 8 日 (金)

会 場 : 大阪商工会議所 (大阪府大阪市)

※第120回包装学校企画運営委員会

月 日 : 2 0 2 4 年 9 月 2 5 日 (水)

会 場 : (株) 古川製作所 (広島県三原市)

※第121回包装学校企画運営委員会

月 日 : 2 0 2 4 年 1 1 月 (予定)

会 場 : 包装機械会館 (東京都中央区)

※第122回包装学校企画運営委員会

月 日 : 2 0 2 5 年 1 月 (予定)

会 場 : 包装機械会館 (東京都中央区)

※第51期ディベートディスカッション・修了式

月 日 : 2 0 2 5 年 3 月 6 日 (木)

会 場 : 東京機械振興会館 (東京都港区)

月 日 : 2 0 2 5 年 3 月 1 3 日 (木)

会 場 : 大阪商工会議所 (大阪府大阪市)

3) 広報推進委員会

広報推進委員会 (委員長 : 下島 敏章氏 ストラパック株式会社 社長) は、関連業界等と連携強化を図りながら以下の委員会活動を推進し、国内外に向けてジ

ジャパンブランドを広くアピールすることにより、当工業会ならびに会員企業ひいては関連業界各位の価値向上に寄与する。

※第29回広報推進委員会

月 日：2024年 5月24日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：2024年度事業計画の詳細について

※ProPak Asia 2024日本パビリオン

月 日：2024年 6月12日（水）～15日（土）4日間

会 場：BITEC（タイ・バンコク）

出展者：株式会社エー・アンド・デイ、王子ホールディングス株式会社
オークテック株式会社、大森機械工業株式会社、株式会社オシキリ
株式会社川島製作所、クラボウ（倉敷紡績株式会社）
株式会社ケーテー製作所、サイエナジー株式会社
澁谷工業株式会社、城南自動機株式会社／株式会社横浜自働機
司化成工業株式会社、株式会社東京自働機械製作所
トキワ工業株式会社、株式会社トパック、ニッカ電測株式会社
株式会社ニッサンキコー、日本ポリスター株式会社
株式会社日阪製作所、株式会社古川製作所、ホクショー株式会社
株式会社三橋製作所、村田機械株式会社、株式会社メイワ
レオン自動機株式会社、一般社団法人日本包装機械工業会
（以上、27社・団体、588㎡／約65小間）

※日本包装機械工業会セミナー〔自動化・デジタル分野、環境・包材分野〕
（四半期に1回）

※日本包装機械工業会「会員セミナー」（四半期に1回）

月 日：2024年 5月31日（金）

会 場：オンライン形式

主 題：窒素ガス置換包装（窒素精製ユニット）について（仮題）

発表者：米澤 裕基 氏

CKD株式会社 市場開発部 課長補佐

月 日：2024年 6月26日（水）

会 場：オンライン形式

主 題：サステナビリティに貢献するHPのソリューション提案（仮題）

発表者：阿部 英之 氏

株式会社日本HP エンタープライズアカウントマネージャー

※PACK EXPO International 2024視察団

月 日：2024年11月 2日（土）～ 7日（木）6日間

会 場：McCormick Place（アメリカ・シカゴ市）

※ユーザー業界／団体との交流事業

〔Next Package 2024への参画〕

月 日：2024年11月28日（木）

会 場：秋葉原UDX Gallery NEXT（東京都千代田区）

※「P&M通信」座談企画（年度内2回）

※ウェブ版機関誌「P&M通信」の発行（原則月2回）

※APACとの連携（適宜）

※産学連携企画の実施サポート

※ユーザー業界／団体との交流事業

4) 産学連携WG

産学連携WGは（リーダー：神谷 泰仁 氏 マキー・エンジニアリング株式会社 社長）は、包装業界がいかに生活に身近かで、社会貢献度の高い業界であるかを広く周知し続け、業界の認知度を向上させるとともに、人手不足や採用難などの業界共通の課題解決に貢献することを主な目的に活動を行う。

※産学連携WGの発足（2024年 4月）

※第1回産学連携WG会議

月 日：2024年 4月12日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：・メンバー構成（案）について

・2024年度事業計画（案）について

・今後のWG活動について（連携強化校（案）、夏の学生向け企画概要（案）の検討、今後の予定（案））

・次回（第2回）会議の開催について

※包装業界合同企業説明会〔仮称〕（2024年10月）

※東京電機大学との連携企画〔学校訪問など〕（時期調整中）

※大学開催イベント・学生イベントへの共同参加（適宜）

※人事部門の相互交流・意見交換（適宜）

5) 技術委員会

業界における技術面での問題や将来的な課題を見出し、検討を具体化して会員への情報発信に繋げる

(1) 包装機械の新技术研究及び情報発信

包装機械に関わる先端技術での最新情報収集のための工場訪問及び意見交換
包装に関わる素材、環境や規格等の最新情報収集及び意見交換

(2) ISO国際規格への対応

包装機械の「ISO国内審議委員会」の運営を継続・充実させる

(3) IOT WG のサポート

包装機械の標準化仕様の基準となる IOT 活用指針の充実、及び、会員企業やユーザー等に周知を行う WG に対して支援する

(4) 警告マークの頒布

機械のオペレーターや保守担当者に危険個所を適切に表示・告知する「警告マーク」和文のみを広く包装機械・関連機器メーカーへの頒布を継続する。

6) ISO/TC313国内審議委員会

包装機械におけるEN415規格のISO化（ISO/TC313）に伴って、ISO国際会議への参加を含み、平成29年度に発足した「ISO国内審議委員会」の運営を継続・充実させる。新ISO規格を基にしたJIS規格の着手を計

画する。

ISO国内審議委員会は、2回／年を予定

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※ISO／TC313／WG1国際会議

月 日：2024年4月10日（水）、17日（水）、18日（木）

2024年5月27日（月）、28日（火）、29日（水）

会 場：オンライン会議

※ISO／TC313国際会議

月 日：2024年11月13日（水）

会 場：イタリア ミラノ

7) IOT WG

包装機械類標準仕様の検討となるIoT導入・活用の「指針」をまとめ、周知することにより包装機械業会及びユーザー業界双方の生産性向上に寄与する

(1) 標準化指針の周知

5月10日（金）に行うウェビナーにより、メーカーユーザー及び関連団体等に広く周知を行う

TokyoPack2024においてパネルディスカッションを開催する

(2) 標準化指針の運用

実質的運用についてメーカー及びユーザーの意見を収集し、柔軟なルール作りを目指す

(3) 標準化指針の修正・補強

各メーカー及びユーザー意見の反映を基に、指針の修正・補強していく

(4) 標準化指針の拡大

他団体、学識者、ユーザーを含めた規模の組織体系の検討をする

※第18回ミーティング

月 日：2024年 4月19日（金）

会 場：ポートメッセなごや（名古屋市港区）

※包装システムにおけるIoT標準化に関する指針（案）発表会

月 日：2024年 5月10日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第19回ミーティング

月 日：2024年 5月30日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※技術委員会会員企業 説明会

月 日：2024年 5月30日（木）

会 場：オンライン

※Tokyo Pack パネルディスカッション

時 期：2024年10月24日（木）

会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

4. 会員等諸会合の開催

定款に基づき歳末特別講演会、新年賀詞交歓会、支部会を開催し、本年度事業の円滑かつ適切な推進に努める。

1) 歳末特別講演会の開催

2024年12月 4日(水)に歳末特別講演会を開催し、会員間の情報交換を推進する。

月 日：2024年12月 4日(水)

会 場：(未定)

2) 新年賀詞交歓会の開催

2025年1月15日(水)に関係官公庁、当会会員、金融、関係団体の方々をお招きして、株式会社日本包装リース合同主催の2025年新年賀詞交歓会を開催する。

月 日：2025年 1月15日(水)

会 場：パレスホテル東京 4階「山吹」

3) 支部役員会・支部会の開催

2024年度事業報告ならびに2025年度事業計画の報告ならびに会員企業からの意見・要望の聴取を目的として東日本支部会、西日本支部会を開催する

※第3回東日本支部会

月 日：2025年 3月11日(火)

会 場：包装機械会館(東京都中央区)

※第3回西日本支部会

月 日：2025年 3月12日(水)

会 場：(京都)

5. 調査、各種情報収集・提供等に関する事業

国内外の包装機械・関連機器に関する技術情報や関連規格等の情報を調査・収集し、広く一般に公開してわが国包装機械産業・関連機器産業の技術高度化ならびに需要業界の包装合理化に資することを目的として、本年度は次の事業を推進する

1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査

わが国の包装機械メーカーを調査対象として、2023年度の生産高と輸出入高ならびに2024年度の生産計画の調査を実施する。

調査結果については「包装機械及び荷造機械生産高・輸出入高統計資料」としてまとめ、会員企業をはじめ広く一般に頒布・公開する。

2) 技術情報の収集・提供等

(1) 技術センター事業

技術委員会で工業会における技術事業のあり方を検討し、技術センターの事業方針を決定する。そして技術委員会で決定した事業に取り組む。

また、従来検査センターの事業として行ってきた、包装機械および関連機器の安全性・衛生性高度化の周知・啓蒙を推進し、労働災害事故の発生を抑えることによってユーザー業界からの信頼性を高め、包装機械産業の発展に貢献することを継続する。

(2) 包装技術相談と引き合いの斡旋

国内外のユーザーからの包装機械・関連機器等に関する各種技術相談を受け付け、製品引き合いに対する会員企業等への斡旋事業を推進すると共に会員企業からの技術開発の向上に関する相談の推進と関係資料の配布に努める。

(3) 機械安全・衛生指導事業

①CEマーキング、リスクアセスメント、「包装・荷造機械の安全基準

－2013」等、安全／衛生の技術相談に対応する。

②包装機械が、「包装・荷造機械の安全基準－2013」・「包装・荷造機械の衛生基準－2018」に適合しているかの相談業務を行う。

(4) 「包装・荷造機械の衛生基準－2018」の普及、啓蒙、指導

2017年度に当会の自主基準である「包装・荷造機械の衛生基準－2018」を制定し、会員企業を中心にユーザー業界等に配布したが、本年度は昨年度に引き続き、本基準がわが国の包装機械製作の際の基準であることの普及、啓蒙ならびに指導に努める。

(5) 各種資料・情報の収集・公開

国内外の包装機械関連の技術情報、規格および統計資料等の収集を行い、会員企業をはじめ広く一般に公開する。

3) 各種情報の発信等

(1) 機関媒体の発行に関する事業

WEB版機関誌「パッケージ&マシン通信」(A4サイズ・購読料無料)を毎月2回メール配信し、わが国の包装機械、関連機器、包装資材等の新製品・新技術情報や当会事業活動、国の施策や機械統計(経済産業省)、貿易統計(財務省)等情報の包装機械業界およびユーザー業界へ周知・広報により、包装業界と需要業界を結ぶ橋渡し役を担う。

6. 人材育成、セミナー、講習会に関する事業

1) 包装学校

わが国包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象として、昭和49年度から包装学校を開講しており、本年度は第51期を迎えることとなった。修了者においては昨年度の第50期まで5,309名を数え、包装機械業界はもとよりユーザー業界からも包装機械に関する唯一の人材育成機関として極めて高い評価を得ている。

本年度は2024年6月から2025年3月までの10カ月間、第51期包装学校を開講して、包装機械業界ならびにユーザー業界包装担当者の人材育成・高度化に努める。

コロナ渦において座学講座をオンデマンドビデオ配信システムへ移行したが、本来の対面講座の要望も高く、講座を順次対面に移行しより受講生間のコミュニケーションを取れる形にしていく。一方で、自由な時間に繰り返し、柔軟に受講できるオンデマンド講座の要望もある事から、2つの方式を併設するハイブリッド型カリキュラムとする。

各課程の受講料(税別)は次の通りである。

NO	課程名	会 員	非会員
1	包装機械設計技術専門課程	¥340,000	¥390,000
2	パッケージングエンジニア専門課程	¥320,000	¥370,000
3	デジタル制御技術専門課程	¥110,000	¥160,000

注意) デジタル制御技術専門課程は、PLCメカトロ制御講座の1講座のみ開催

2) 青年部会

青年部会(部会長: 古城 美将 氏 城南自動機株式会社 社長)は、次代の経営幹部の育成ならびに会員相互の親睦を図るため、当会工業会の定款に定める目

的に従い以下の部会活動を推進する。

※2024年度定時総会

月 日：2024年 4月 9日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：・2023年度事業報告書（案）の承認について
・2024年度役員体制（案）の承認について
・2024年度事業計画書（案）の承認について

※講演会

月 日：2024年 4月26日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

主 題：海外へは行ってみるものだ！

講 師：下島 敏章氏 ストラパック株式会社 代表取締役社長 執行役員

※第88回幹事会

月 日：2024年 5月14日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：・2024年度事業計画案の推進について

※研修会（仮称）

月 日：2024年 7月（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

主 題：（企業承継およびマネジメントの内容で調整中）

講 師：大島 康義氏（予定）

株式会社大島康義経営研究所 代表取締役 後継社長専門
事業承継&企業変革コンサルタント

※第1回勉強会（仮称）

月 日：2024年 7月（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

主 題：勉強会の概要と次回に向けて（仮題）

※第2回勉強会（仮称）

月 日：2024年 9月10日（火）（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※夏季セミナー

月 日：2024年 9月11日（水）・12日（木）（予定）

会 場：軽井沢（長野県北佐久郡）近郊（予定）

※第3回勉強会（仮称）

月 日：2024年11月頃（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第4回JPMA・JBCM青年部会交流会

月 日：2024年11月頃（予定）

会 場：（未定）

※2025年新年情報交換会

月 日：2025年 1月14日（火）

会 場：（未定）

※第4回勉強会（仮称）

月 日：2025年 2月頃（予定）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第89回幹事会

月 日：2025年 2月頃（予定）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン
内 容：・2024年度事業報告書（案）の承認について
・2025年度役員体制（案）の承認について
・2025年度事業計画書（案）の承認について

※海外包装市場視察ツアー（予定）

※会員名簿PDF版の運用

※その他、一般社団法人日本包装機械工業会の定款に定める目的に従って活動を促進するとともに、次代の経営幹部の育成並びに会員相互の親睦を図る。

3) 各種セミナー・講習会

(1) 厚労省通達「設計技術者に対する機械安全教育」講習会開催

日本包装機械工業会は職業能力開発総合大学校、（一社）安全技術普及会、職業能力開発総合大学校と共催で講習会を継続開催する。

開催場所・・・オンライン

- ① 機械の安全化と国際安全規格（2日）
2024年12月 5日（木）、 6日（金）
- ② 機械安全におけるリスク低減（2日）
2025年 1月16日（木）、17日（金）
- ③ リスクアセスメントの実践と妥当性確認（2日）
2025年 2月 6日（木）、 7日（金）
- ④ 電気と制御システムの安全設計編（2日）
2025年 3月 6日（木）、 7日（金）

上記①～④修了者に「修了証明書」を発行する。

(2) IEC 60204-1/JIS B 9960-1対応

「実習で学ぶ制御盤の安全検証試験」講習会開催

高度ポリテクセンターと共催で講習会を開催する。

- 関東会場 高度ポリテクセンター（定員：15名）
2024年11月 6日（水） 7日（木）
- 関西会場 ポリテクセンター関西（定員：15名）
2025年 2月19日（水）、20日（木）
- 新潟会場 ポリテクセンター新潟（定員：15名）
2024年11月12日（火）、13日（水）

7. 国の施策に関する事業

1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業

2017年7月にスタートした「中小企業等経営強化法」の証明書発行団体として、2017年8月から証明書の発行を開始し、ユーザー業界への設備投資促進に努め、累計10,293通の証明書を発行した。本年度も引き続き証明書の発行を行い、わが国包装機械・関連機器の販売促進に努める。

2) その他各種施策への対応

人手不足解消に効果がある汎用製品の導入支援に対する施策「中小企業省力化投資補助金」への対応、周知に努める。

8. その他関連事業

1) 包装機械会館の運営に関する事業

株式会社日本包装リースならびに株式会社包装システムと協調し、6階部分の賃貸、2階会議室の貸し出しを促進すると共に包装機械会館の運営・保守保全に努める。

2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業

株式会社日本包装リースとの協調によるリース販売の促進、事業承継サポートプログラムの利用促進、ならびに出資業務・アドバイザー業務などの会員向けサービスの利用促進に努める。また株式会社包装システムと協調し、PL保険・包装機械総合保険への団体加入の促進に努める。

3) 福利厚生に関する事業

全国印刷製本包装機械企業年金基金および印刷製本包装機械健康保険組合の事業に積極的に協力し、加入者の福利厚生事業の充実に努める。

4) 関連産業との連携

(一社)日本食品包装協会、(一社)日本粉体工業技術協会をはじめ、包装関連産業、食品関連産業、製パン・製菓産業、印刷機械産業、電気・電子機器産業などの産業連携や、包括連携協定を締結している東京工科大学工学部との連携、ならびにCLOMA等の官民連携も推進し、包装機械業界の発展に努める。